# 国語2　説明的な文章を読む（本の読み方）

**2**　中山さんは、本の読み方について考えるために、【A】と【B】の文章を読んでいます。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【A】

（岸見一郎『本をどう読むか』による。）

【B】

（岸見一郎『本をどう読むか』による。）

（小林秀雄「読書について」による。）

（注1）　ヘラクレイトス＝生没年不詳。紀元前五百年ごろに活躍したギリシャの哲学者。
（注2）　「文は人なり」＝十八世紀にフランスの博物学者ビュフォンが演説の中で述べて広まった言葉。
（注3）　書簡＝手紙。
（注4）　片言隻句＝わずかな言葉。

一　――線部「落胆する」の意味として最も適切なものを、次の**1**から**4**までの中から**一つ**選びなさい。

**1**　慌てる
**2**　恐れる
**3**　恥ずかしがる
**4**　がっかりする

二　【A】と【B】の文章に共通している表現の効果を説明したものとして最も適切なものを、次の**1**から**4**までの中から**一つ**選びなさい。

**1**　主張に関わる言葉を引用することで、伝えたいことを印象付けている。
**2**　敬体でていねいに述べることで、伝えたいことを身近に感じさせている。
**3**　問いかけを用いることで、伝えたいことに興味をもたせている。
**4**　冒頭の一文に結論を示すことで、伝えたいことを明確にしている。

三　中山さんは、【A】と【B】の文章で述べられていることを次のようにまとめました。次の［ア］、［イ］に入る言葉として最も適切なものを、次の**1**から**4**までの中からそれぞれ**一つ**選びなさい。

> 読書の楽しみについて、【A】では［ア］ということが、【B】では［イ］ということが述べられている。

**1**　同じテーマの本を何冊も読むことで、ものの見方を広げる
**2**　一人の作家の代表作を選んで読むことで、その作家の特徴をつかむ
**3**　同じ本を再度読むことで、以前と違う自分に気付く
**4**　一人の作家の全集を隅から隅まで読むことで、その作家の性格や個性を知る

四　中山さんは、【A】や【B】の文章で述べられていることを参考にして、自分の本の読み方について考えました。あなたなら、これからどのように本を読んでいきたいと考えますか。次のア、イについて、それぞれの指示にしたがって書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

ア　【A】か【B】、またはその**両方**の文章から、自分が着目したところを**抜き出し**なさい。

イ　アを踏まえ、読書に関する経験や知識に触れながら、これからどのように本を読んでいきたいかを具体的に書きなさい。

※　次のページの枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

選んだ文章　←選んだ文章の番号を塗りつぶしなさい。

①【A]　②【B】　③両方

ア

イ

## 出題の趣旨

目的に応じて複数の文章を読む場面において、次のことができるかどうかをみる。

- 事象や行為、心情を表す語句について理解すること
- 観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えること
- 文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握すること
- 文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること

「C読むこと」の学習においては、「構造と内容の把握」、「精査・解釈」、「考えの形成、共有」に関する各指導事項が示す資質・能力を身に付けることができるように、意図的・計画的に指導を重ねることが大切である。教材の選定に当たっては、各学年で説明的な文章や文学的な文章などの文章の種類を調和的に取り扱う必要がある。また、〔知識及び技能〕の「⑶我が国の言語文化に関する事項」に位置付けられている「読書」に関する指導事項との関連を図り、生徒の日常の読書活動に結び付くように指導することも重要である。

読書を通して自分の考えを広げたり深めたりするには、本や文章などが様々な立場や考え方から書かれていることを理解し、読む対象を選択する際の観点としたり、読み進める際の参考としたりすることが重要である。また、観点を明確にして複数の文章を比較しながら読んだり、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付けたりすることで、物事に対する新たな視点をもてるようにすることも大切である。

本問では、本の読み方について考えるために、読書に関する二つの文章を読む場面を設定した。それぞれの文章に書かれている内容を理解したり、表現の効果を捉えたりすることで、読書についての自分の考えを広げたり深めたりすることを求めている。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第１学年〕　思考力、判断力、表現力等　Ｃ　読むこと

ウ　学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする活動。

〔第２学年〕　思考力、判断力、表現力等　Ｃ　読むこと

ウ　本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたことなどを説明したり提案したりする活動。

(参考)

〔第３学年〕　思考力、判断力、表現力等　Ｃ　読むこと

ウ　実用的な文章を読み、実生活への生かし方を考える活動。

## 設問一

### 趣旨

事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第１学年〕　知識及び技能

⑴　言葉の特徴や使い方に関する事項

ウ　事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。《語彙》

### １．解答類型と反応率

| 問題番号 | | 解答類型 | | 反応率(%) | 正答 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 一 | 1 | １と解答しているもの | 2.8 | |
| | | 2 | ２と解答しているもの | 2.2 | |
| | | 3 | ３と解答しているもの | 3.5 | |
| | | 4 | ４と解答しているもの | 91.3 | ◎ |
| | | 99 | 上記以外の解答 | 0.0 | |
| | | 0 | 無解答 | 0.2 | |

### ２．分析結果と課題

○　解答類型１～３の反応率の合計は8.5%である。このように解答した生徒は、「落胆する」という語句の意味の理解に課題がある。「落胆する」という語句になじみがなく、意味を正しく理解していないものと考えられる。

## ３．学習指導に当たって

### 語句の量を増し、語句についての理解を深める

語感を磨き、語彙を豊かにするためには、語句の量を増すことと、語句についての理解を深めることの両面が必要である。その際、各学年において指導の重点として示された語句のまとまりを中心としながら、学習の中で必要となる多様な語句を取り上げて指導することが大切である。

例えば、文章を読んで新しく出合った言葉を取り上げ、辞書を引いて意味を確かめる学習活動が考えられる。その際、第１学年であれば、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係を考えることができるよう指導することが重要である。第２学年であれば、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについての理解が深まるように指導することが重要である。第３学年であれば、慣用句や四字熟語などについて理解を深めること、和語、漢語、外来語などを使い分けることができるように指導することが重要である。また、取り上げた語句を継続的に書き留めておき、実際の場面で使うように指導することも、語彙を豊かにすることにつながる。

指導に当たっては、平成30年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語Ａ8に係る授業アイディア例「自分だけの『語彙手帳』を基に、言葉を使いこなそう～語感を磨き語彙を豊かにする～」、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校　国語】』事例１「新たに知った言葉を紹介する～聞き手を意識して話す～」も参考になる。

（参照）

「平成30年度【中学校】授業アイディア例」pp. 3-4
https://www.nier.go.jp/jugyourei/h30/data/18idea-mlang_01.pdf

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校　国語】』（令和２年３月）
pp. 42-49
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_mid_kokugo.pdf#page=48

## 設問二

### 趣旨

観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる。

### ■学習指導要領における内容

〔第２学年〕　思考力、判断力、表現力等　Ｃ　読むこと

エ　観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること。　《精査・解釈》

## １．解答類型と反応率

| 問題番号 | | 解答類型 | | 反応率(%) | 正答 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 二 | 1 | １と解答しているもの | 63.4 | ◎ |
| | | 2 | ２と解答しているもの | 10.7 | |
| | | 3 | ３と解答しているもの | 9.1 | |
| | | 4 | ４と解答しているもの | 16.4 | |
| | | 99 | 上記以外の解答 | 0.0 | |
| | | 0 | 無解答 | 0.4 | |

## ２．分析結果と課題

○　解答類型２～４の反応率の合計は36.2%である。このように解答した生徒は、「表現の効果」という観点で二つの文章を比較し、共通点について考えることに課題がある。選択肢１の「主張に関わる言葉を引用する」ということが、具体的にどのようなことであるかを理解できなかったものとも考えられる。

解答類型２の生徒は、「敬体」とは具体的にどのような文体のことなのかを理解できていないものと考えられる。解答類型３の生徒は、「問いかけ」を用いて「伝えたいことに興味をもたせている」表現が、文章の中にあるかどうかを確かめることができていないものと考えられる。解答類型４の生徒は、【Ａ】の文章の結論が、冒頭ではなく文章の最後の一文に示されていることを捉えることができなかったものと考えられる。また、【Ａ】の文章の結論が、冒頭の一文に示されていると誤って捉えたものとも考えられる。

## ３．学習指導に当たって

**観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考える**

説明的な文章において表現の効果について考える際には、文章で述べられている内容を確かめた上で、文章のどの部分にどのような表現の工夫が見られるかを捉えることが必要である。その際、構成や展開、引用や事例の示し方、文末表現や文体などに着目し、それらの工夫が文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えることが大切である。

例えば、表現の仕方に着目しながら一つの文章を読み、その文章において見られた表現の特徴や工夫が他の文章でも見られるかを確かめたり、二つの文章を同一の観点で比較して特徴や工夫を見いだし、その効果を考えたりする学習活動などが考えられる。その際、同じ筆者による異なる文章、異なる筆者による主張が共通している文章、同一の話題で主張が異なる文章、同じ内容を扱った異なる新聞記事、立場の異なる読み手を想定した実用的な文章などを教材として取り上げることなどが考えられる。

## 設問三

**趣旨**

文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる。

**■学習指導要領における内容**

〔第１学年〕　思考力、判断力、表現力等　Ｃ　読むこと

ア　文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること。　《構造と内容の把握》

## １．解答類型と反応率

| 問題番号 | | 解答類型 | | 反応率（%） | 正答 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 三 | 1 | アの欄に３、イの欄に４と解答しているもの | 74.5 | ◎ |
| | | 2 | アの欄に３と解答し、イの欄に４と解答していないもの | 9.9 | |
| | | 3 | イの欄に４と解答し、アの欄に３と解答していないもの | 9.6 | |
| | | 99 | 上記以外の解答 | 5.7 | |
| | | 0 | 無解答 | 0.3 | |

## ２．分析結果と課題

○　平成31年度【中学校】国語1二（正答率62.2%）において、「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えること」に課題が見られた。これに関連して、本問では、文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することを求めたところ、正答率は74.5%であった。今回の結果から、改善の状況が見られる。

（参考）

**○関連する問題**

| 問題番号 | 問題の概要 | 正答率 | 解説資料 | 報告書 |
|---|---|---|---|---|
| H31 1二 | 「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている、弁当の魅力として適切なものを選択する | 62.2% | pp.12-23 | pp.20-34 |

（参照）

「平成31年度【中学校】報告書」pp.20-34

https://www.nier.go.jp/19chousakekkahoukoku/report/data/19mlang.pdf#page=22

○　解答類型２、３の反応率の合計は19.5%である。このように解答した生徒は、叙述を基に文章の中心的な部分を捉え、要旨を把握することに課題がある。

解答類型２の生徒は、「読書の楽しみ」について、【A】の文章で述べられていることを捉えることはできているが、【B】の文章で述べられていることを捉えることができていない。【B】の文章には、冒頭の一文に示されている「ある作家の全集を読む」ことが「読書の楽しみ」に至る方法であるという筆者の考えが述べられている。解答類型２の生徒の多くが、「イ」の欄に「２」と解答しており、このように解答した生徒は、「全集」と「代表作」との違いが理解できなかったものとも考えられる。解答類型３の生徒は、「読書の楽しみ」について、【B】の文章で述べられていることを捉えることはできているが、【A】の文章で述べられていることを捉えることができていない。【A】の文章で筆者は、「同じ本を再度読むこと」を勧めており、そうすることで「今の自分が前に読んだ時とは違うと感じられる」ことが「読書の楽しみ」であると結んでいる。解答類型３の生徒の多くが、「ア」の欄に「１」と解答しており、このように解答した生徒は、【A】の文章に繰り返し出てくる「同じ」という言葉の印象のみで解答したものとも考えられる。

## ３．学習指導に当たって

### 文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握する

説明的な文章を読む際には、文章の構造を捉えて要旨を把握することが大切である。説明的な文章は、文章の中心的な部分と付加的な部分とが組み合わされていたり、事実を述べた部分と意見を述べた部分とで構成されていたりする。それを踏まえ、段落ごとに内容を捉えたり、段落相互の関係を押さえたりしながら、更に大きな意味のまとまりごとに、文章全体における役割を捉えることが重要である。また、要旨とは、文章で取り上げている内容の中心となる事柄や書き手の考えの中心となる事柄である。正確に要旨を捉えるためには、文章の構造を踏まえて、キーワードやキーセンテンスなどに着目して情報を整理することが必要である。

例えば、文章全体の構造を図や言葉で整理し、要旨をまとめる学習活動が考えられる。その際、指示する語句や接続する語句に注意しながら段落ごとの内容や段落相互の関係を押さえたり、大きな意味のまとまりごとに小見出しを付けたりしながら情報を整理することができるように指導することが大切である。また、要旨をまとめる際には、キーワードやキーセンテンスなどに傍線を引くなどして、捉えた要旨が文章中のどの叙述に着目したものかを自覚することができるように指導することも大切である。

**設問四**

**趣旨**

文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる。

**■学習指導要領における内容**

〔第２学年〕　知識及び技能

⑶　我が国の言語文化に関する事項

エ　本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすこと。　《読書》

〔第２学年〕　思考力、判断力、表現力等　Ｃ　読むこと

オ　文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。　《考えの形成、共有》

## 1．解答類型と反応率

| 問題番号 | | 解答類型 | | | 反応率(%) | 正答 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 四 | （正答の条件）<br>次の条件を満たして解答している。<br>① 【A】、【B】、**両方**の中からいずれか一つを選んで、その記号を塗り潰している。<br>② **ア**に、【A】、【B】または**両方**の文章から自分が着目したところを抜き出している。<br>③ **イ**に、これから自分がどのように本を読んでいきたいかを具体的に書いている。<br>④ ③について、自分の読書に関する経験や知識に触れながら書いている。<br>（正答例）<br>・**ア** 【A】<br>同じ本でもいつも読むたびに新しい発見があります。<br>**イ** 私は、今まで再読をした経験がなかったけれど、「新しい発見」を体験してみたいので、以前に読んだ本をもう一度読んでみたいと思います。<br>・**ア** 【B】<br>ある作家の全集を読むのは非常にいいことだ。<br>**イ** 私は好きな作家がいるが、その作家の全集を読んでみようとは思わなかった。好きな作家のいろいろな作品を読んで、いずれは全集にも挑戦し、作品の面白さだけではなく、その作家の個性を深く知りたいと思った。<br>・**ア** **両方**<br>自分は前に読んだ時とは違っている 文は人なり<br>**イ** 好きな作家の本を再読することが時々あり、同じ作品でも、印象が変わることがあった。それに加えて、今後は、作家の性格や個性を探りながら読んで、新しい発見ができたらよいと思う。 | | | | |
| | | 1 | 条件①、②、③、④を満たして解答しているもの | | 67.8 | ◎ |
| | | 2 | 条件①、②、③を満たし、条件④を満たさないで解答しているもの | | 8.7 | |
| | | 3 | 条件①、②、④を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの | | 1.6 | |
| | | 4 | 条件①、③、④を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの | | 5.0 | |
| | | 99 | 上記以外の解答 | | 13.0 | |
| | | 0 | 無解答 | | 3.8 | |

## ２．分析結果と課題

○　解答類型２について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

（例）
・ア　【Ａ】
　　今の自分が前に読んだ時とは違うと感じられるというのも読書の楽しみの一つだと思います。
　イ　これからは本を再度読んで、最初と違うものを感じていきたい。

・ア　【Ｂ】
　　「文は人なり」
　イ　同じ作家の本を多く読むことで、その作家がどんな考えをもっているのかを考えて読んでいきたい。

このように解答した生徒は、**【Ａ】**、**【Ｂ】**または**両方**の文章から自分が着目したところを抜き出し、これから自分がどのように本を読んでいきたいかについて書くことはできているが、その際、読書に関する自分の経験や知識について触れることができていない。読書に関する経験や知識が少なかったり、読書をしていても目的や意図をもっていなかったりしたためと考えられる。

○　解答類型３について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

（例）
・ア　【Ｂ】
　　文は眼の前にあり、人は奥の方にいる
　イ　私は本を読むのが好きで、よく同じ作家の本を読むことがあります。

このように解答した生徒は、**【Ａ】**、**【Ｂ】**または**両方**の文章から自分が着目したところを抜き出し、読書に関する経験や知識について書いているが、これから自分がどのように本を読んでいきたいかについて具体的に書くことができていない。

○　解答類型４について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

（例）
・ア　【Ａ】
　　前に読んでいた時と違った読み方ができます
　イ　読書をしていると、分からなかったことが分かって楽しくなることがあります。これからも、新しい発見を得られるように本を読みます。

このように解答した生徒は、読書に関する経験や知識に触れながら、これから自分がどのように本を読んでいきたいかについて具体的に書くことはできているが、**【Ａ】**、**【Ｂ】**または**両方**の文章から自分が着目したところを適切に抜き出すことができていない。

## ３．学習指導に当たって

### 文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする

文章を読んで自分の考えを広げたり深めたりするためには、文章に書かれている内容を理解することにとどまらず、自分がもっている知識や経験と結び付けることで、理解したことや考えたことを一層具体的で明確なものにしていくことが重要である。そのためには、生徒が自分で課題を設定し、その解決のために文章を読む学習活動の中で、文章を読んで理解したことと自分の考えや経験とを比較したり関連付けたりしながら解決策や改善策を考える場面を設定するなど、主体的に文章を読むことができるように指導することが大切である。

また、第２学年〔知識及び技能〕の(3)「エ　本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすこと。」との関連を図り、読書の意義や効用について理解を深めながら、国語の学習が読書活動に結び付くように指導することも大切である。

例えば、日常生活や社会生活の中から知りたいことや課題を見いだし、その解決に役立てるために、様々な立場や考えが書かれている複数の本や文章を読む学習活動が考えられる。その際、自分の考えが、本などを読んだことによって、どのように広がったり深まったりしたのかを振り返ったり、読書にはどのような意義や効用があるのかを考えたりする場を設定することで、自分の読書活動について自覚的になるよう指導することが有効である。

さらに、学習したことを自分の読書に生かすことができるようにするためには、一単元のみの指導にとどまらず、継続的な指導を行うことが重要である。具体的な授業のアイディアの一例を次に示す。

## 授業アイディア例　読書の意義を考え、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かす

**【本アイディア例と関連する問題及び学習指導要領における内容】**

設問四　正答率　67.8％

〔第２学年〕知識及び技能　⑶

エ　本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすこと。

〔第２学年〕思考力、判断力、表現力等　C

オ　文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。

**教　材**　●　令和５年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語2

**学習の流れ**

第１時

**❶　学習の見通しをもつ。**

今まで皆さんは、どのように読書をしてきましたか。改めて読書の意義について考え、これからの読書を充実させましょう。

教 師

**❷　これまでの自分の読書を振り返る。**

**❸　「本の読み方」というテーマについて考えるために、調査問題の二つの文章を読み、自分の考えがどのように広がったり深まったりしたかを交流する。**

**〔交流している場面の例〕**

私は【A】の文章を読んで、再読するというのは面白そうだと思いました。今までしてこなかったけれど、簡単にできそうなので、前読んだ本をもう一度読みたいです。

【B】の文章で述べられている、全集を読むとその本を書いた作家のことが分かるという考え方が心に残りました。この文章を読まなければ、そのような読み方を知ることはなかったと思います。

**❹　読書を通じて様々な考えに出合うことが、自分の考えを広げたり深めたりすることに役立つことを確かめる。**

「本の読み方」という同じテーマについて書かれた文章でも、著者が違うと、述べられている本の読み方も異なっていますね。異なる著者の本を読むことで、多様な考えに出合うことができますね。

第２時

**❺　前時の気付きを生かして、第１期の読書活動について見通しをもつ。**

今年度は考えを広げたり深めたりするための読書、名付けて「考え読書」に取り組んでみましょう。約１か月の読書の期間を３回設定します。まず第１期では、どのようなテーマについて考えてみたいですか。「読書チャレンジカード」の「１　テーマ」に書きましょう。そして読もうと思う本を選びましょう。

※　期間ごとの読書活動を見通したり振り返ったりするために、例のようなカードを用いることが考えられる。
※　「本のタイトル」に示した書名は、架空のものである。

〔Ａさんが書いた「読書チャレンジカード」の例〕

〈考え読書〉第１期（５/１～５/３１）

１　テーマ（何について考えたいか）

言葉について
**～その理由～**
いろんな言葉をもっと知りたいから。

２　読んだ本

| 本のタイトル | 著者 | その本との出合い | 概要、気付き、感想など |
|---|---|---|---|
| 言葉の世界 | ○○○○ | 図書室 800 のコーナー | 同じ意味の言葉にも違いがある。 |
| 考えてみよう言葉のこと | ○○○○ | 一冊目の参考文献 | 違う言葉でも語源が同じことがある。 |

３　読書を通して広がったり深まったりした考え

似たような言葉同士に違いがある一方で、異なる言葉同士がつながっていることもある。言葉の世界は奥深いと思った。

４　第１期の読書の振り返り（テーマの設定、出合い方、選び方の観点から）

・図書室の言語（800）のコーナーに行った。
・題名や目次、前書きに目を通して確かめた。
・参考文献を手掛かりにして、次に読む本を選んだ。

５　第２期の読書に向けて

引き続き、言葉について考えていくつもりだ。様々な考えに触れるために、第１期で読んだ本とは異なる著者の本を選んで読もうと思う。

年間を通した取組になるよう、第１～３期を年間指導計画に位置付ける。また、生徒の実態に応じて、期間ごとの取り組み方を工夫することが考えられる。

**〔取り組み方の例〕**
第１期の取組については、教師が指示を出し、第２期以降は、生徒が各自で取り組み方を考える。

**〔教師が出す指示の例〕**
・異なる（同じ）著者の本を読む。
・雑誌や図鑑なども読む。
・ジャンルの異なる本を読む。
・誰かが薦めている本を読む。
・教科書で紹介されている本を読む。

など

〔Ｂさんが書いた「読書チャレンジカード」の例〕

〈考え読書〉第１期（５/１～５/３１）

１　テーマ（何について考えたいか）

猫について
**～その理由～**
猫が好きだから。

第２時の❺で記入する

２　読んだ本

| 本のタイトル | 著者 | その本との出合い | 概要、気付き、感想など |
|---|---|---|---|
| 図鑑いろいろなネコ | ○○○○ | インターネットで調べた。 | 猫の生態の面白さ。 |
| 猫になった中学生 | ○○○○ | 司書の先生に紹介してもらった。 | 身近なところにある幸せ。 |

期間中に記入する

３　読書を通して広がったり深まったりした考え

人間の世界には実は小さな幸せがたくさんあるのに、私たちはそれを普段見過ごしてしまっているのだと思った。

第３時の前に記入する

４　第１期の読書の振り返り（テーマの設定、出合い方、選び方の観点から）

・猫というテーマは少し曖昧だった。
・司書の先生に相談するとよい本に出合える。

第３時の前に記入する

５　第２期の読書に向けて

今度は、「幸せ」や「幸福」などをテーマにした本を読みたい。読みやすいものを司書の先生に紹介してもらう。

第３時の❽で記入する

第３時　※　第３時は、第１期が終了した時点で行う。

**❻　「読書チャレンジカード」を基に、第１期の読書活動についてグループで交流する。**

〔交流している場面の例〕

第１期の読書はどうでしたか。「読書チャレンジカード」の「３　読書を通して広がったり深まったりした考え」、「４　第１期の読書の振り返り」を中心に、グループで交流しましょう。聞いている人は、その人の取組についてさらに聞いてみたいことを質問しましょう。

Aさん

私は、言葉について考えてみました。『言葉の世界』という本には、似たような言葉にもニュアンスの違いがあると書かれていて、そのような視点で言葉を見ていくのは面白いと思いました。一方で、『考えてみよう言葉のこと』には、一見関係なさそうな言葉と言葉でも、つながっていることがあると書かれていました。

複数の本を読むことで、同じテーマについても異なる見方に触れることができ、考えが広がるのですね。ところで、どうやって本を選んだのですか。

一冊目の本を選ぶときには、学校図書館の言語のコーナーで、気になった題名の本を手に取り、目次や前書きを読んで、考えてみたいテーマと合っているかを確かめました。二冊目は、一冊目の本に示されていた参考文献の中から選びました。

Bさん

次は私が発表します。私は猫が好きなので、猫に関する様々なジャンルの本を10冊読みました。その中で、私の考えを変えてくれたのは、『猫になった中学生』という本でした。この本には、猫になった中学生が見た人間の世界が描かれています。考えたいテーマは、「猫」という少し曖昧なものでしたが、司書の先生がこの本を紹介してくださったおかげで、普段は気付かない人間の幸せについて、思いがけず考えることができました。

10冊も読んだのですか。だから、思いがけない出合いがあったのですね。ところで、どうやったら、そんなにたくさんの本を読めるのですか。

1日の中で、読書をする時間帯を決めました。それと、時間が空いたときにすぐ読めるように、本を持ち歩くようにしました。

なるほど、読書の時間が確保できるように工夫したのですね。ちなみに、次のテーマはどうするのですか。

幸せについてもう少し考えてみたいので、「幸せ」や「幸福」などをテーマにします。

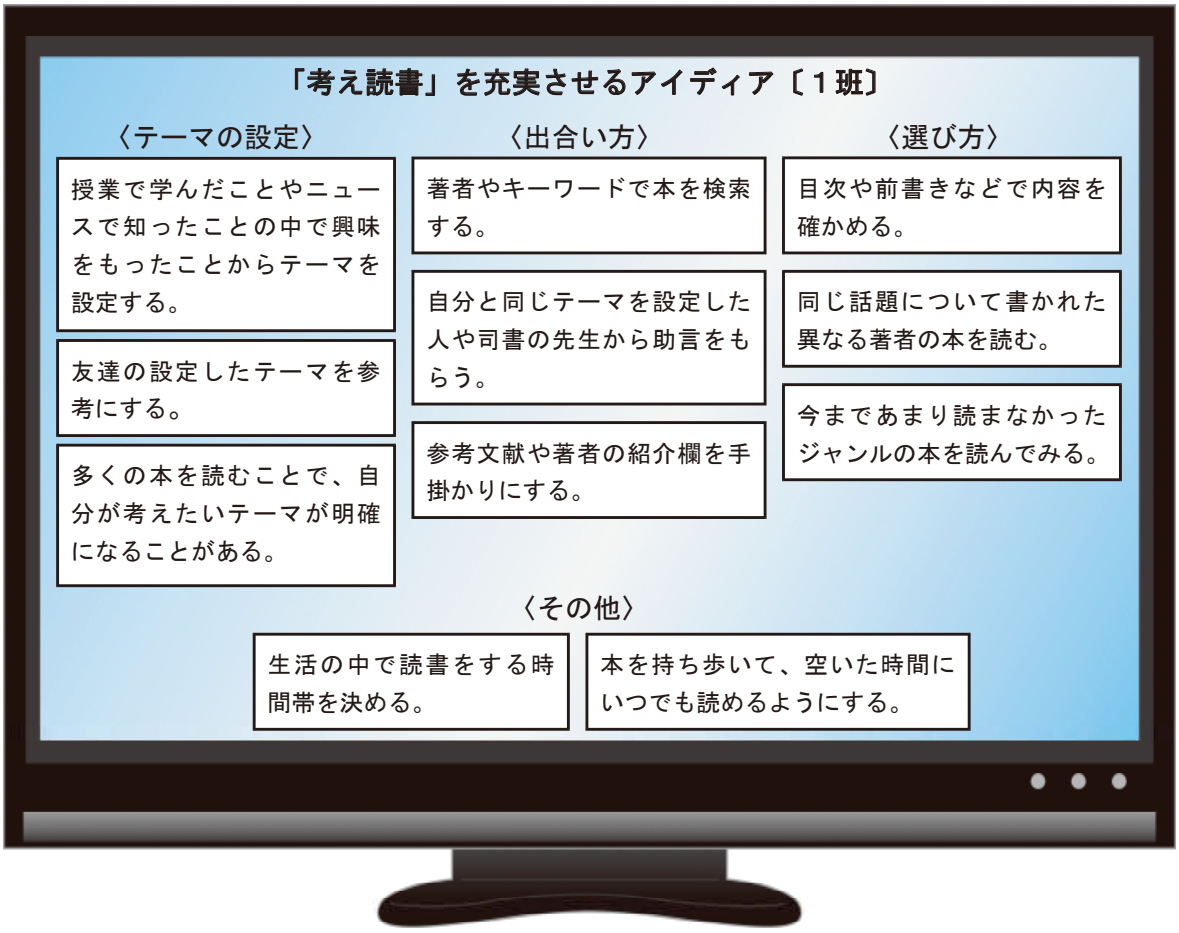
ポイント

**❻の活動は、読んだ本の紹介に終わることなく、読書の取組を振り返り、自分の読書生活に生かしていくことを重視する。**

❼　グループで交流したことから、「考え読書」を充実させるアイディアについて他のグループにも紹介したいことを整理し、全体で共有する。

※　ここでは、ICT 機器のホワイトボード機能を活用して学習することも考えられる。

〔「考え読書」を充実させるアイディアの例〕



第１期の読書を振り返り、交流したことで、読書を充実させるいろいろなアイディアが見付かりました。今日の学習を生かして、第２期はどのようなテーマで、どのように読書をしたいかを「読書チャレンジカード」の「５　第２期の読書に向けて」の欄に書いてみましょう。

❽　グループで交流したことや、全体で共有したアイディアなどを参考にして、「読書チャレンジカード」の「５　第２期の読書に向けて」に、第２期の読書に生かしたいことを記述する。

〔生徒の記述の例〕

- 　グループの友達の話を聞いて面白そうだと思ったので、友達と同じ「言葉」というテーマで本を選んで読んでみたい。
- 　「歴史について」では、テーマが広すぎて本が選びにくかったので、今度は人物や時代を絞って読んでみたい。
- 　グループの友達の話を聞いて、読書は考えを広げることに役立つものだと分かりました。第１期と同じテーマで、目次や前書き、後書きなども参考にして、第１期に読んだ本とは異なる見方が書かれていそうな本を選んで読みたいです。
- 　私は一冊も本を読み切ることができなかった。第２期は読書をする時間帯を決めて、第１期のテーマに再挑戦したい。

【活用する際のポイント】

○　学校で作成した読書の全体計画の中に、本アイディア例のような読書指導を計画的に位置付けることが効果的である。なお、読書に取り組む期間や取り組み方については、学校の実情や生徒の実態に合わせて工夫することが大切である。

○　発達の段階に応じて系統的かつ継続的に読書活動に取り組めるよう、例えば、第１学年では「知識（情報）読書」、第２学年では「考え読書」、第３学年では「生き方読書」など、各学年の「読書」に関する指導事項に合わせた目標を示すことが考えられる。

○　司書教諭や学校司書などと連携し、生徒が自分の読書の傾向を自覚できるようにすることが大切である。その上で、テーマや条件を生徒自身が考えて読書に取り組むことができるようにしていくことが重要である。

## 【コラム②】〔知識及び技能〕の位置付けの工夫
## ～「読書」に関する指導～

● 中央教育審議会答申において、「読書は、国語科で育成を目指す資質・能力をより高める重要な活動の一つである。」とされたことを踏まえ、平成29年告示の学習指導要領では、各学年において、国語科の学習が読書活動に結び付くよう〔知識及び技能〕の(3)「我が国の言語文化に関する事項」に「読書」に関する指導事項を位置付けるとともに、「C読むこと」の領域に、学校図書館などを利用して様々な本などから情報を得て活用する言語活動例を示しています。

「読書」に関する指導事項についても、他の指導事項と同様に、系統性を理解して指導することが大切です。文末に注目することで分かるように、小学校段階では、指導事項に示された読書の意義や効用について「知ること」「気付くこと」、中学校においては「理解すること」「生かすこと」を求めています。

**〔「読書」に関する指導事項〕**

| （小）第１学年及び第２学年 | （小）第３学年及び第４学年 | （小）第５学年及び第６学年 |
|---|---|---|
| エ　読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 | オ　幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 | オ　日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。 |
| （中）第１学年 | （中）第２学年 | （中）第３学年 |
| オ　読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解すること。 | エ　本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすこと。 | オ　自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解すること。 |

生徒が読書の意義や効用を理解し、自分の読書に生かすことができるようにするには、各学年の指導事項を踏まえて意図的に指導し、自分の読書活動を振り返って、どのようなよさがあったのかを認識できるようにすることが必要です。また交流を通して、仲間の気付きに学んだり、自分の読書活動をより充実させるためのアイディアを得たりすることも大切です。

例えば、授業アイディア例で示したように、「C読むこと」と関連付けた学習をした上で、各自が授業での学びを自分の読書に生かす期間を設け、授業でその期間の取組を交流しながら振り返るような展開が考えられます。その際、各学年の指導事項に応じて目標を設定したり、読書活動を振り返ったりすることができるようなカード等を用いるなど、意図的に指導することが大切です。

なお、読書活動は国語科だけでなく、各教科等で充実を図るものです（中学校学習指導要領　第１章総則第３の１　参照)。学校として読書指導の全体計画を作成し、実施する中に、国語科における読書指導を計画的に位置付けていくことが大切です。

**※出典等**

【A】は、岸見一郎『本をどう読むか　幸せになる読書術』(2019年２月　ポプラ社)、【B】は、小林秀雄「読書について」(『小林秀雄全作品11　ドストエフスキイの生活』2003年８月　新潮社）による。